

将来像

里山で暮らし続けるため、人口が減少しても、決して消滅しない、基礎的な生活機能が保証され、住民から住みやすい・住み続けたいと思われる「住みたい町：住田」を将来の姿とします

①子どもの数は、小学校2校を維持することを目標に設定し、複式学級を回避するため1学年20人を確保できるような施策の構築。

②歩いて行ける範囲に生活に必要な買い物ができる環境の整備

③町内にいながらできる仕事があり、その仕事で生活できる収入・賃金の確保。

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計は、何ら施策を講じなかった場合の人口推計で、このまま何も施策をしないと、住田町の人口は平成52年(2040年)には3,211人と見込まれています。

一方、出生率が人口置換水準に回復した場合の、平成52年(2040年)の住田町の人口は、3,375人になると見込まれます。

出生率が人口置換水準に回復しても、住田町からの人口流出による社会減が続くため、人口が減少し続けます。

したがって、住田町では、様々な施策を展開することにより、出生率の向上と社会増減ゼロを実現し、2040年に4,012人の人口を目指します。

